



第36号

発行 **東京清陵会** (諏訪清陵高等学校同窓会-東京支部) 会長=両角寛文 編集=92回生(昭和61年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>
事務局 E-mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP・印刷=スタジオバラム

2025年を迎えた私たちは、かつてないほどの変化と不確実性に直面しています。中東情勢はさらに悪化、ロシアによるウクライナ侵攻は終わりが見えず、アジアでも台湾海峡の緊張が高まっており、地域の安定が揺らいでいます。超大国の内向きな政策により世界がさらに分裂し、無秩序な状態になる危険を孕んでいます。世界各地では異常気象が頻発し、森林火災や洪水などの自然災害が増加。人工知能の技術が急速に進展し、さまざまな分野で革新的な変化をもたらしており、私たちの生活をより便利にしていますが、同時にプライバシーやセキュリティ、雇用への影響などが懸念されています。

幹事学年である92回生は、今回の会報のテーマを「清陵」という心の熾火」としました。熾火とは、炭や薪が燃えて赤くなり、炎を上げずに静かに熱を湛えて燃えている状態を指します。普段は穏やかで表に現れていないが、何かあればその時には一気に燃え上がる。そんな熾火が私たち一人ひとりの心の中にあり、それが私たちの「清陵」なのではないかと考えました。将来が見えず、答えが見つからない時代。それでも変わらずずっと我々の心の中にあり続け、行動の源泉となってきた大切なもの。我々の心

の熾火である「清陵」とは何なのかを言語化する試みを、この会報作成を通してやってみようという思いからスタートしました。

92回生の現役生当時、清陵では校舎改築が行われていました。改築工事の中で、授業部活動、校友会、清陵祭、どれもが不自由な環境の中で行われ、3年間の間に「ボロボロ校舎」は新校舎となり学校の雰囲気は大きく変わりました。そんな制約や変化もある意味楽しみながら過ごした高校時代。特色ある独自の校風、魅力のあるユニークな先生方、温かく見守ってくださった諏訪

という地域、そして多様で多彩な同期の仲間たち。そこで何を感じ、何を学び、どんな思いを抱いていたのか。さらにそこから36年の時が経ち、その間、それぞれ悩み、苦しみ、成功も挫折も経験する中で、何を大切にしてきたのか。現在にどう繋がっているのか。そのようなアプローチから、「清陵」という心の熾火を探ってみました。

今回の会報作成を通して、同期の仲間たちが、現役生当時どんな景色を見ていたのか、卒業後どのような苦労を経て活躍してきたのかを知ることができたのは、大きな喜びでした。このような機会を与えて頂いた東京清陵会という同窓会に感謝申し上げます。

記事に登場する人たちの心の中にある熾火を少しでも感じ取っていただければと思います。そしてこの会報が、みなさんご自身にとっての「清陵」の素晴らしさを再認識するきっかけになれば幸いです。

(溝口浩司 92回生)

“清陵”という 心の熾火

2025年度

東京清陵会定期総会のご案内

総会および記念講演会は会場+Zoomによるハイブリッド開催を予定

■日時=2025年10月5日(日) 12:00(11:45受付開始)

- ・総会=12:00~12:30
- ・記念講演会=12:30~13:30
演題「伝統産業と資本主義 一諏訪味噌の視点から」
講師 株式会社竹屋(タケヤミソ)取締役社長 藤森伝太(92回生)
- ・懇親会=13:30~15:30

■開催場所(ハイブリッド開催)

- 会場:喜山倶楽部(日本教育会館9F)「平安の間」
東京都千代田区一ツ橋2-6-2 ☎03-3262-7661
- ※神保町駅(都営新宿線/三田線・東京メトロ半蔵門線)下車、徒歩3分
- ※オンライン=Zoomでの配信を予定(無料)

■会費懇親会参加費:事前お振り込み ~109回生まで8,000円、110回生から121回生まで6,000円、122回生~2,000円

お振り込み先

- ゆうちょ口座 記号番号:00130-2-16785
- ゆうちょ銀行 店番:〇一九 当座 口座番号:16785
(お振り込みされる場合は、「回生 名前」でお願いします。
例=92回生 清陵 太郎の場合:92 セイリョウ タロウ)
- ※会員の方:懇親会参加費に年会費(2,000円)を合わせてお振り込みいただくようお願いします。懇親会不参加(または、オンライン参加)の場合は、年会費のみお振り込みをお願いします。
- ※他支部からの参加の方:懇親会参加費のみお願いします。

■お申し込み方法

右上のQRコードの「参加登録フォーム」にて、参加登録をお願いします(会場、オンラインとも)。
参加登録締切:2025年9月20日(土)

■問い合わせ先=92回生当番幹事

suwaseiryoy92kaisei@gmail.com



お申し込みは
こちらから

巻頭
特集

附属中卒業生と92回生が想う

心の熾火おきびが示すもの

2025年2月、清陵で濃い6年を送った附属中からの卒業生と、新旧両校舎に通った92回生が集い、「清陵という心の熾火」について語りあいました。

座談会参加者



中澤 新 (123回生)

塩尻市出身、清陵附属中一期生。信大大学院に通いながら、走れる体育教師を目指し、信大附属松本中にて非常勤講師。



吉川 円香 (124回生)

塩尻市出身、清陵附属中二期生。高校時代にスキーで海外遠征。モントリオール理工科大留学経験をもつ東北大院生。



橋本(旧姓木川)由布子 (92回生)

諏訪市出身。外資系銀行を経て米国公認会計士試験合格、現在は法律事務所で経理。コロナ前から広島でリモートワーク。



竹内 良之 (92回生)

茅野市出身。市教育委員会在籍時に岡谷小・田中小の統合に尽力、阿智中学校長を経て現在岡谷田中小校長。

竹内 昨年、東京清陵会のミドル交流会で講演させていただきました。地元に戻った教員から東京で活躍されている方々への故郷の力をテーマとした話。故郷で育った私たちには人生の豊かな基盤があり、それこそが心の熾火と伝えたかったです。今日はみなさんりの心の熾火をお聞きしたいです。

熾火の種火(多様性)

吉川 清陵高校は、高校生活全般を話し合うホームルームと、志望系統が似た者が一緒に授業を受ける講座があり、常に複数のコミュニティに属して様々な議論や取組を行う面白さがありました。

中澤 中学・高校を通じて部活中心の生活でした。附属中を希望したのは、高校受験がなく部活に集中できるから。文武両道をみんな実践していました。

竹内 今はない出身中学に基づく地方会も特徴的。入学にあたり先輩から熱意ある指導を受けました。地元で優秀とされる清陵生にとって、井の中の蛙とならず広い世界に出ていく登竜門でした。

橋本 受け皿が多く、変にベタベタしてなくて、求めれば助けてくれました。手の差し伸べ方は格好よかったですね。近

年注目されている価値観の多様性を学ぶ環境が昔からありました。

熾火を育む息吹(教師と生徒)

竹内 授業中に楽しかったのは先生の雑談で、知的好奇心を刺激してくれました。学ばせるのではなく、学びたい気持ちを育ててくれました。清陵の先生になるには相当の覚悟があると聞きました。自主性を重んじる校風の例になりますが、覚えている校則は「バイク通学禁止」の一つだけ。また、入学式の日に「警察に捕まりさえしなければ何をやってもよい」との担任の言葉は、中学上りのピカピカの高校一年生にとって刺激的でした。

橋本 教師は放任主義。悪い意味ではなく生徒の自主性を尊重したものの。勉強を押し付けない一方、研究室を訪ねて質問すれば高度な指導を受けられました。例えば、先生の力量が問われていました。あと、学友会副会長のとき、学友会室に「教師の立ち入りを禁ず」という貼り紙がしてあったことが印象的でした。自主の精神を培う環境が当たり前のようにありました。

吉川 附属中は授業が特徴的でした。ただ聞くだけでなく、主体的になれま

した。先生たちも生徒が伸びる環境をつくることに本気でした。生徒よりも先生の熱意がすごかったですね。

中澤 個人を尊重する風土は、新しい附属中にも落とし込まれていました。個人の希望をくみ取り、一緒に考えて行動してくれる教師が多かったです。それに応えて、生徒たちも人の挑戦を馬鹿にしないうし、応援や手助けをしていました。高校に上がって驚いたのは「シーコール」。騒がしさを自らが律して治める姿に感動しました。

橋本 「シー」にはいろんな意味がありました。しょうもない発言や長すぎる発言への牽制や、大事な発言に対して傾聴を促すもの。談話会の時が多かった気がします。

竹内 清陵の根底にあるものは、中学でも高校でも個人の輝きと、それを支える人のつながりなのかなと思います。しつらえるけれども、あとは自分でやれよ、最後に輝くかどうかは自分次第だと。

中澤 附属中一期生として、一から学校を創っていく中で、どうしても一期生だけだと学校にならないというか、本当に学校を創っているのか疑問でした。そして二期生が入ってきた時、一緒に学校を

創っていく仲間ができて、ようやく学校になってきたなど。人のつながりの大切さを実感しました。

熾火を護る両手(地域)

橋本 清陵は地域にすごく愛されています。清陵生がやることだからと大目に見てくれることも。例えば、清陵祭でファイヤーストームをやると近所の家は2日間ぐらい洗濯物を干せないんですよ。いろいろ飛んでくるから。でも応援してくれました。思えば、あのプロアスター教(最古の宗教の一つ、拝火教)みたいなものに夢中になれて、周囲も理解してくれたのは、みんなの思いをまとめる不思議な力があつたのかもしれません。ほかにも端艇大会が雨天延期になって、消防署に行ったときに大人扱いしてくれたこともありました。おそらく先生が陰でフォローしてくれていたのだと思います。生徒の主体的な活動は、陰で大人に支えられていることを忘れずに、いつかは自分が恩返し(ペイフォワード)できれば、振り返ったときに豊かと感じられると思います。

竹内 清陵生はやんちゃもするけど信用されていると思います。自分たちで考えた結果と行動を尊重してくれました。そういう地域のまなざしは確かにあるのに気づかないことも多いと思います。大人になり支える側になってから気づくことがよくありますね。

中澤 通学路や陸上部の練習で使っていた坂道があって、冬は自分が使うわけではないのに雪かきをしてくれて、夏は暑い中でも応援してくれました。みんなに見守って頂いていたと今になって実感しています。

吉川 湖周マラソンで沿道から応援して

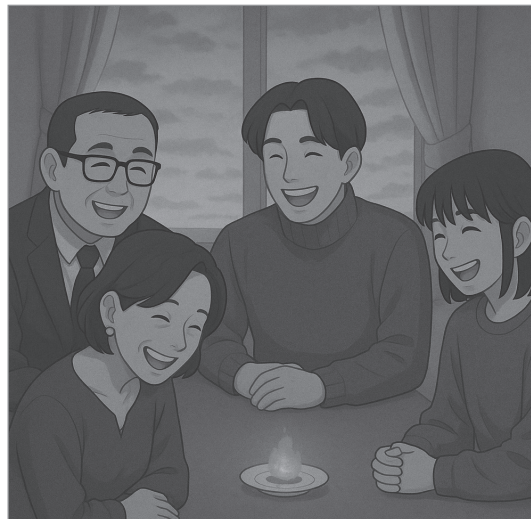
くれた方々。明らかに生徒の数よりも多かったです。自分が知らないところで、生徒の成長を見てくれている方がいると印象に残りました。清陵で騒ぎが起きてそういう方々を悲しませることがあってはいけないと思いましたね。

熾火は燈火となり各地へ

吉川 清陵生の強みは、多様性・自主性を尊重する高校だったゆえの、新しい環境に飛び込み、新しい挑戦を始めることに抵抗がないこと。何にでもチャレンジできる人間になりました。これはすべての原動力になります。

橋本 学友会活動を通じて、真っ当なことを真っ当に言うことが一番難しいと学びました。いろんな人の意見に向き合いながら交渉・調整し、内容や相手によって言い方や聞き方を使い分けことが大事。社会に出てもスケールが大きくなるだけで学びの基本は熾火として生きます。地域や世代を超えて他の人に伝えていくことが大事だと思います。

中澤 私が目指す教職は、大切な考えを全国とか世界に広げられる面があると思っています。多様性を認め合える環境はもちろんのこと、いろんな場所で本物



AIによるイメージ画像

を見て触れて、周囲に伝えていく。全国に清陵OBがいることも強みになります。**竹内** 清陵OBを起点に周囲によい影響を広げられるとよいですね。モノで豊かになるだけでなく、どう在りたいかが大切。to haveではなくto be。挑戦というプロセスを大事にして、得られる結果は自己更新すればいい。私たちの周りには、多様性・自主性を尊重し、支えてくれる人が、諏訪にも、全国各地にも、世界にもいます。そのつながりこそが私たちの故郷の力であり、心の熾火だと考えています。

〈あとがき〉

昨今、長野県でも中学受験が可能となり、諏訪地区の人材の他地区への流出を危惧する声もありますが、今回参加いただいた清陵中卒業生は塩尻市出身です。清陵中創立の効果として他地区からの精粹の流入が、新たな清陵を育み始めていたことを嬉しく思いました。対談外ですが、同席いただいた元清陵中教師の武井淳子(92回生)先生の示唆に富む感想を紹介します。「同窓生の中には、清陵を誇りに思い、集い語らう人もいれば、そう思えない、そう思っても行動できない人もいるかもしれません。強くて優しい人であることを大事にし、いろいろな人を受け入れて、繋がれない仲間にも心に向けて、決しておごらず謙虚に生きていきたいと思いました。清陵を出た同じ社会人として、これからも繋がれるといいですね。」なお、座談会イメージはオンライン会議のスナップショットと扱った話題を生成AI(ChatGPT)に与えて作成しました。(仲田 優 92回生)

諏訪の酒 真澄

真澄

MASUMI
SUWA 1662

人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ ― 人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。
自然を結ぶ ― 米作農家との連携。より良い自然環境を継承。
時を結ぶ ― 和食文化の継承。新たな価値の創造。

七号酵母発祥蔵元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16

TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



◀ 真澄ホームページ

特集
寄稿清陵が紡ぐ、
諏訪と横浜と世界●小池道子
(こいけ みちこ)

profile

上諏訪中出身。立命館大卒。横浜市役所に入庁後、自治体業務の基礎習得に始まり、市長室秘書、みなとみらい21地区の企業誘致、子育て支援を含む福祉全般、博物館開設、民間企業との包括連携、国際基幹航路の寄港の維持・拡大、文化・スポーツイベント開催と多岐にわたり地域活性化に取り組む。



私は1993年に横浜市役所に入庁しました。横浜市は人口377万人と、全国の市町村で最多を誇り、職員数は約4万6千人と、諏訪市の人口に匹敵します。18の区役所に加え、港湾局や国際局など横浜ならではの部署があり、多様な分野で活躍できる環境が整っています。こうした環境では、想像を超えて様々な職務に就くことができ、清陵や諏訪を感じ、自身のルーツを意識する瞬間も数多くありました。

最初の配属先である鶴見区では、長年税務の分野で活躍された長田憲（65回生）さんが同じ部署におり、市職員としての基礎を丁寧に教えてくださいました。

入庁15年目には港湾局に配属され、横浜開港150周年記念事業の一環として「横浜みなと博物館」の開設を担当しました。展示のテーマは横浜港の歴史。1859年の開港から1941年まで、横浜港の主要輸出品目は生糸であり、その多くが諏訪から運ばれていたことを知り、郷土とのつながりに感動を覚えました。横浜繊維振興会の松村会長は、今でも私と会うたびに、横浜の発展は諏訪と繋がっていると力説してくださいます。

2018年には芸術アクション担当として、フランス・リヨン市と連携したダンスフェスティバルを開催しました。リyonは古くから絹織物の産地であり、19世紀にヨーロッパで蚕の病気が広がり絹の入手が困難になった際、横浜港からの生糸がその危機を救いました。この縁から1959年に横浜市とリyon市は姉妹都市となりました。

現地出張時、ロース川とソース川が合流する風景を前に、生まれ故郷の諏訪で育まれた生糸が横浜港からリyonへ届き、今回はそのリyonの芸術監督と横浜でフェスティバルを開催することに、深い縁を感じ感慨に浸りました。

また芸術アクション担当時には、2016年に2か月にわたる音楽フェスティバルも実施。オープニングでは玉置浩二さんのオーケストラコンサートを開催し、指揮を務めたのはバルカン室内管弦楽団音楽監督の柳澤寿男（93回生）さんでした。思いがけない繋がりに驚くとともに、現在も柳澤さんのコンサートに足を運んでいます。

思いがけない諏訪との出会い

横浜市では2008年から、民間事業者と連携し社会課題解決を図る取り組みを、他都市に先駆けて始め、私はその専門部署に二度配属されました。なかでも伊藤園とは初期に包括連携協定を結び、防災や健康など幅広い分野で市民サービス向上に努めました。伊藤園〔現タリーズコーヒージャパン株式会社代表取締役社長〕の内山修二（92回生）さんのお力添えもあり、同社とは現在も人事交流が続くなど、さまざまな成果を上げています。

また、横浜版地域循環型経済の推進においては、早川秀策（92回生）さんの奥様で、環境省室長や長野県副知事を務めた中島恵理さんから、長年にわたりご理解とご支援をいただいています。

2017年に横浜で開催された第50回アジア開発銀行年次総会では、各国財務大

臣や中央銀行総裁に味噌汁を振る舞う文化発信の機会があり、その際には、タケヤみそ（株式会社竹屋）取締役社長の藤森伝太（92回生）さんにも繋がりました。

現在は、横浜市スポーツ協会常務理事を務めています。今年2月に連日TV中継された日本カーリング選手権大会や世界トライアスロン横浜大会など大規模スポーツイベントの開催支援、日産スタジアムやスポーツ医科学センター、国際プール、スポーツセンターなど市内外30施設の運営、トップスポーツチームとの連携など、スポーツを通じて街の賑わいを創出しています。

横浜市もいよいよ人口減少局面に入り、税収の減少、担い手の不足、需要の減少など、多くの課題に直面しています。そうした厳しい状況であっても、市民生活の質と都市の活力の向上へ繋がるよう、しっかりと取り組んでいきます。

諏訪も横浜と同様の課題を抱え、教育分野では高校授業料無償化により、教育の自由度が高く独自財源を持つ私立との競争が激化しています。その中で、清陵もより訴求力が必要です。今後も清陵から魅力的な人材を多く輩出し、それぞれが活躍することにより、諏訪が活性化する好循環となり、諏訪の発展に繋がることを期待しています。

入庁から32年、14の部署を経験する中で、折に触れて諏訪の繋がりがや清陵の同窓生との出会いがありました。こうしたバックボーンを大切にしながら、これからも横浜市民のために尽力していきます。

特集
寄稿私の履歴書
「キャリアは迷走、
されど前進」●金子 基
(かねこ もとつぐ)

profile

諏訪西中出身。法政大学卒。高校時代はサッカー部のエースストライカーとして活躍。13回の転職はいつもオフサイド、それでもなお夢を追い続ける熱血漢。学生時代から精力的に様々なプレイを追求し、現在もオン・オフを問わずハットトリックを狙う、果てのないファンタジスタ。

父の背中が語る、裸一貫での挑戦
(息子撮影)

第1章

証券会社にて社会の洗礼を受ける

1993年、大学卒業と同時に、私は当時「四大証券」と呼ばれていた大手証券会社に入社した。

世はバブルが弾けた直後。世間では「地獄の時代」と囁かれていたが、実のところ、思っていたほどでもなかった。電話営業や飛び込み営業に明け暮れる日々。成績は可もなく不可もなく、「ほどほど」だった。今振り返れば、ここが“頑張りきらない癖”の原点だったのかもしれない。

第2章

ネットベンチャーという名の海に飛び込む

IT黎明期。インターネット、ベンチャー、IPO…そんな言葉が飛び交う時代に、私は次の舞台を求めて転職した。勢いあるインターネット企業に入社し、熱狂の中に身を置いた。だが、当時は就職氷河期と貸し渋りの真っ只中。事業は急拡大の末に資金繰りが追いつかず、崩壊の気配を感じて私は船を降りた。

第3章

IPO、そしてサッカーという夢

三度目の転職。人材と広告を掛け合わせた企業で新規開拓に注力した私は、念願のIPOという節目を迎えた。だが、夢見た初値は予想の10分の1。現実の厳しさをまたもや思い知らされる。

ちょうどその頃、高校時代に果たせなかったサッカーへの夢を思い出す出来事が起きた。私が勤めるベンチャー企業のオーナーにJ2サッカーチームの買収話が持ち込まれたのだ。私は交渉を重ね、

県庁やJリーグとぶつかりながら、わずか数ヶ月で新会社を設立。気づけばGMの肩書きを背負っていた。本業との両立に悩みながらも、「リアルサカつく」を実現した日々は、私の中で特別なものとして今も記憶に残っている。

第4章

成長と転落、そして家庭

その後は再びベンチャーへ。新規事業やM&A、事業責任者としてイケイケの毎日を過ごした。

プライベートでもパートナーと出会い、「これからようやく親孝行ができる」と胸をなでおろした。だが、会社は成長のスピードにひずみが生じ、社内は混沌とし始めた。私は危機を察し、3年半で退職。ストックオプションは、ただの紙きれとなった。

第5章

安定期と再びの挑戦

安定を求め、次に選んだのは同族経営の堅実な企業。マーケティング部門の立ち上げを任せられ、組織は成長。子どもも生まれ、「今が一番穏やかな時期だ」と感じていた。だが、私はまたしても挑戦を選ぶ。「人のふんどしで相撲を取るだけでは、何かが足りない」。妻を社長に据え、会社を立ち上げた。中小企業庁の推奨も受けたが、結果は2年でクローズ。副業という形では続けられなかった。

第6章

混迷の時代へ

その後の数年は、「不惑」とは名ばかりの混迷の時代だった。新規事業、出版系ホールディングス、地場建設会社の人

材ビジネス…。さまざまな企業に関わったが、資金不足、戦略ミス、組織崩壊と、思うようにいかない日々が続いた。百貨店やスタートアップで個人事業主として糊口をしのぎながら、私は「会社に所属しない働き方」の厳しさを肌で感じた。

第7章

医療人材の世界で再出発

そして2020年、私は医療系の人材サービス会社にマーケティング責任者として迎えられた。

世の中は未曾有のコロナ禍。医療現場が混乱する中で、看護師をはじめとした医療従事者の支援に尽力した。オンライン登録の導入、CX（顧客体験向上）ツールの導入、広告の最適化など、デジタル化と改善を重ね、一定の成果を出すことができた。「これが最後のステージかもしれない」そう思っていた矢先、会社の業績がコロナ特需の反動で急落。気づけば、私は営業統括として再び前線に立っていた。

第8章

人生を振り返って

思えば、いくつもの岐路があった。その都度、私は転び、迷い、走り続けてきた。高校時代に出会った言葉——「自反而縮、雖千萬人、吾往矣」（自らを省みて正しければ、万人を敵にしても我行かん）この言葉が、幾度となく私を支えてくれた。成功か失敗かを決めるのは、結果ではなく、自分の心の持ちようだと思う。忘れてしまったことも多いが、いつだって「その瞬間」を懸命に生きていた。それだけは、胸を張って言える。

92回生海外駐在経験者鼎談

清水ヶ丘から世界へ！

海外に出て見えてくるもの



横井 克俊

長峰中出身。信州大卒。東京医大院修了。眼科医。ジョンス・ホプキンス大博士研究員として2005～2008年に米国メリーランド州在住。清澄白河よこい眼科院長。



矢嶋 仁志

永明中出身。東北大卒。総合商社の駐在員として2006～2009年にデトロイトとシカゴに在住。2016～2021年にデュッセルドルフ在住。現在は本社勤務。



増澤 邦彦

茅野北部中出身。青学大卒。豪ボンド大MBA。ドイツの製薬会社に勤務し2002～2003年にフランクフルト近郊のピースバーデン在住。現在は国内メーカーの国内外財務統括として年間90日ほど海外出張で世界各地の支店を回る。

横井 経歴を見ると、僕とヤジ（矢嶋）の在米時期は結構被っているのに、アメリカで会うことはなかったね。アメリカにいることさえお互い知らなかった。

矢嶋 SNSとかない時代だったから。

横井 二人は2018年にデュッセルドルフ（ドイツ）で会ってるんだよね？

増澤 久しぶりに顔を出した清陵東京組の飲み会で「ヤジがデュッセルにいる」と聞いて、急いで連絡を取った。海外で頑張る人の苦勞話を聞くのが大好きなんです。

矢嶋 南米出張のついでにわざわざ来てくれたんだよな。「あさげ」「ゆうげ」とか大量のインスタント食品を手土産に。

横井 そういう時、不思議と清陵時代の思い出話とかあんまりしないんだよね。
増澤 そうだね。お互いのこれまでの歩みや家族のことを確認しあって、その後は仕事の内容や悩みなんかを共有して。でも、海外で会って特別な気がして大事にしている。

矢嶋 旧市街のテラス席で高校の仲間とグラスを傾けるのは感慨深かったな。

横井 僕は学友会長だった星野とニューヨークで何度か会ったよ。銀行の駐在員としてニューヨークにいた彼と数年ぶり

に会った7月4日はアメリカの独立記念日で、アメリカでは国中で花火が上がる日。美意識の違いと言えばそれまでだけど、とにかく数多く打ち上げればいいって感じだから、やっぱり諏訪湖の花火大会は素晴らしいなと思ったね。

海外駐在には危険がいっぱい

横井 僕は勤務先が大学病院だったけれど、歯医者は街の開業医にかかった。その先生が自分のクリニックで撲殺死体で発見されたというニュースには心底驚いたよ。ボルチモア（アメリカ）って市内人口は65万人くらいだけど、年間300件くらい殺人事件があるんだよね。2人は危険な目に遭ったことある？

矢嶋 米国駐在時代によく出張したサンパウロ（ブラジル）は危なかった。リオデジャネイロもかな。車で通勤中の同僚が信号待ちで銃を持った強盗に時計と財布をやられてたね。イパネマのビーチで日焼け中に足をくすぐられ、パッと起きた瞬間、枕にしていた貴重品を盗まれた先輩もいた。中国ではマッサージ屋さんでガサ入りに遭うとか。ドイツはスリ、空き巣と車上荒らしが多い。クリスマスが近づくとう東欧から窃盗団が来るんだよ。

僕自身、車上荒らしに2回遭ったけど、ハンドルがなくなった車を見た時は、心にぽっかり穴が開いたよ。

増澤 僕もブエノスアイレス（アルゼンチン）で危なかった。東京銀行から車で自社事務所に向かうところをバイク3台の窃盗団に尾行されて、車から降りたところを襲われた。間一髪で車内に戻ったんだけど、サイドガラスもリアガラスも全部割られ、車外に引き出されそうなのを足だけで必死に抵抗した。勇敢なドライバーがほかの車にぶついたり、信号無視しながら交番まで逃げ切ってくれて何とか命拾い。今になって思うと映画のワンシーンみたいだった。当然、車は廃車。後日、大使館員に「今回は超ラッキーでした。次は絶対に抵抗しないでください。相手が銃を持っていたら、今頃生きてませんでしたよ。お金もPCもパスポートも全部渡してください」と叱られてしまったよ。

海外での勤務には辛いこともいっぱい

横井 当時の僕みたいな研究職だと、どうしても生活が単調になるし、長い間、成果が全く出ないような不運も当たり前

に起こるから、周りの日本人ポストドクの半分くらいが鬱っぽくなっていた。2人が仕事面で特に大変だったことは？

増澤 僕のドイツ駐在中に、鳥インフルエンザの流行、牛海綿状脳症（BSE）、イラク戦争があった。ある日、同僚がオフィスで僕の部屋だけドアを閉めにきたんで、理由を聞いたら「鳥インフルだろ？」と。いやいや、それ香港だし。当時のドイツ人の大半は東アジア3国の違いさえ分かってなかったと思う。

矢嶋 シカゴ駐在中の2008年にリーマンショックが起きて、取引先から「お前が注文止めるならレイオフしなきゃならない。会社を潰す気か！」と。これはキツかった。

増澤 誰かに辞めてもらわないといけない時はつらいね。不正による解雇の場合は、こちらの調査結果がその人の人生を

私の熾火
〈92回生アンケート〉

Q.現在の仕事／その仕事を選んだ理由について

歯科医師：男性「父が開業しており、友人が父に歯を治してもらって嬉しかったと聞いたから」、**地方公務員：女性**「営利を追求せず、必要なサービスを必要な人に届ける仕事に就きたかった」、**作業療法士（病院）：女性**「親の勧めで、女性も資格を持って自立する時代と言われ、国家資格を取りました」——回答の大半を占めた「会社員」は、IT系、住宅建設業、小売業、メーカーなど業種は多岐にわたりました。医療、福祉、教育など専門職も目立ちました。仕事選びの理由は家庭環境、憧れ、社会貢献意識、地元志向など。現役の中高生のみなさんが将来の仕事選びに抱いている思いと大きく変わっていないのではないでしょうか。

Q.清陵の3年間で、今の自分にどう影響していますか？

直接左右するからプレッシャーが大きい。去年は帰国後3週間お腹を壊した。

それでも海外へ出よう！

横井 医者がキャリアの途中で数年、海外留学するのは珍しいことじゃないから、薄学な僕でも留学経験者の知り合いを数えれば3桁になる。そういう医者何人かで話しても、お互い似たような経験談ばかりで退屈なことが多いんだけど、今日はビジネスマンとして海外に出ている2人の話をとても興味深く聞いたよ。

増澤 こんな角度で話したことはなかったから面白かったね。

矢嶋 2人と話していたら高校時代の記憶が呼び起こされて、あっという間だった。

横井 これから海外へ出ようと思っている若い世代に何かひと言あれば。

92回生のみなさんを中心に、いまの仕事を選んだ理由や、清陵の3年間で今の自分に与えている影響、現役の清陵中高生に伝えたいことを回答してもらいました（男性：18名、女性：9名の計27名）。このアンケートの回答から「わたしの熾火」と題して、その一部をご紹介します。（所属等の固有名を含む回答は一部編集しています）

会社役員：男性「人の真似ではなく、自分自身で考えて行動することは、清陵で学んだからこそ得たものではないかと思う」、**教員：女性**「自分に向き合う大事な時期を、よい環境で過ごせたことがよかったと思っています」、**保健師：女性**「よき先輩と素敵な同級生下級生に恵まれた事は大きな財産です」——自分で考える力や自立心を養うことができたとの回答が最多でした。同期に限らず、先輩・後輩から受けた影響を挙げたみなさんも多かったです。

Q.現役清陵中高生に伝えたいことは何ですか？

会社員（小売業）：女性「どんな経験であれ、それは必ず将来役に立つ。何が起こっても自分を失わない強さを作っておくこと」、**作業療法士（フリーランス）：女性**「失敗を恐れずいろいろな経験をするとよいと思います」——まずはやってみよう、経験に無駄は

矢嶋 英語はそこそこでも、とにかく海外に出なよってこと。早ければ早いほどいい。均質で居心地のよい日常から飛び出して、外から日本を見て欲しい。自分の足りないところ、日本はもっと頑張らなくてはならないこと、世界のデカさを肌で感じて欲しいね。

増澤 高校時代の無為な日々を繰り返すまいと目の前の仕事から逃げずにやってきて、気がついたら「財務×海外」が自分の仕事になっていた。今もし「海外に出よう」と思っているなら、それだけで十分に素晴らしい。全力で挑んで行けるところまで進み、違っていたら方向転換すればいい。その過程の全てが財産になると思う。

横井 今日はどうもありがとう。とても楽しかった。引退したら、またゆっくり話そう。

ないというエールが最多でした。

建設系コンサルタント：男性「清陵を繋いで来てくれてありがとう。清陵生であることに誇りを持って、これからの人生歩んで下さい」、**接骨院：男性**「学生時代から、先輩にいろいろと言われるのが嫌な人間だったので、私からも言いません。自分らしく生きていただくことが大切です」、**会社員（メーカー）：男性**「生涯の友を作って欲しい」、**会社員（IT系）：男性**「県外へ出なさい」——清陵の校風をつないでくれたことへの感謝や独自の視点のアドバイスもありました。

全体を通して、清陵時代の経験が、みなさんの心にしっかりと息づいていることを実感できるアンケート結果でした。現役の清陵中高生と交流する機会がありましたら、みなさんの心の熾火をぜひ後輩たちに伝えてあげてください。

（瀧澤宣明 92回生）

特別
寄稿

私の清陵時代

東京清陵会の56回生から126回生に、ご自身の高校生活の一番の思い出を語っていただき、時代と共に変わる、あるいは変わらない清陵生活を紹介します。

初めて女子生徒を迎える

日本相撲協会相撲教習所講師
渡部 清(56回生)



私たちの入学した1950（昭和25）年は新制高校発足の年。入学者306名、うち女子生徒14名。それまで男子生徒ばかりだった清陵にとって新鮮かつ驚きの出来事だったと思われます。制度・設備上、学校側も大変だったことでしょう。当時は木造校舎で一部は傾きをつっかい棒で支えたり、体育館の床はささくれだっていたり大変な状態でしたから。14名中12名が上諏訪中学校から、岡谷・宮川から各1名。前年上諏訪中から清陵へ転任なさった小嶋馨先生の影響があったのかもしれませんが。女子生徒が入学後、光輝いていたことは言うまでもなく、学期も終わるころには、先輩も共学に慣れたようです。

ボロボロ帽子で入学！、「先輩！」と間違えられる…

アートディレクター
早川次彦(61回生)



「清陵出てから20年～今じゃ満州の大馬賊♪」などと五万節を唄って既に70年近い。思い出しても懐かしい青春時代だった。トンボ、マムシ、ガマさん、ゼツちゃん、熊さん、牛正…懐かしいあだ名がいっぱいでくる。テニス、スキー、美術部に所属。とりわけ美術部での、ゼツちゃんこと宮下琢郎先生の影響は大きい。初めて描いた油絵「富士見高原の白樺林」は今でも我が家に飾ってある。諏訪市内3校美術部会で二葉に行き、宮芳平先生からの優しいご指導も忘れられない。余談になるが、当時二葉に行けるのを羨ましがられたものだ（笑）。

農村問題実態調査

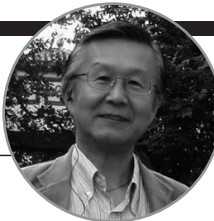
米山迪男(63回生)



清陵への入学は、1957（昭和32）年のこと。早々に社会部に入った。清陵祭に向けて農村問題研究班が設置された。調査のため、茅野・湖東小に3泊4日で合宿した。当時は兼業農家を含めると人口の半数が農家といわれた時代。テーマは各自思い思いのテーマを選んだ、私は、村の年齢別人口分布、耕作地面積別件数、山口、須栗平両集落に嫁いだ人の出身地なども調べた。当時の部の顧問の細田、平沢、小平先生が寄稿してくれた。

試肝会の思い出
山浦奴哲歩歩会

小平 聡(75回生)



暗い山道を行くと人影があった。「そこに手え突っ込んでひとつつかめ」懐中電灯の先にはヤカン、中にぬるぬる動くものが。どじょう？「よーし、それを飲め。頭から飲みゃあ入ってくよ」意を決して呑み込んだ。腹の中で動いている。吐き気を必死でこらえているうちに動かなくなった。「その木に登って山鳩鳴いてみる」「鳴き声、分かりません」「ばかやろー、ドテポッポって鳴くぞら」「ドテッポッポ、ドテッポッポ」その後、皆でカレーを食べて朝まで騒いだ。これから3年間、仲間とやっていけそうな気がした。入学して間もない土曜日の一夜。

清陵時代の
懐かしくも淡い思い出

岡本歯科院院長
岡本 徹(83回生)



清陵時代のことは今でも本当にいろいろ思い出されますが、一番となるとやはり学友会の副会長として関わった高3のときの清陵祭です。アーチ、合唱コンクール、ファイヤーストーム、(恒例の)二葉の銅像へのいたずらなど懐かしく思い出されます。その中でも衝撃だったのは、ファイヤーストームが始まる前、学友会の役員数名で舞台に上り、清陵祭の歌などを皆と一緒に歌っていたときに、突然舞台の底が抜けてしまったこと。特に怪我などは無くよかったのですが、よく覚えています。また、企画の一つに「フォークダンス」があり、当時想っていた女子と踊れたことも若き日のうれしい（淡い）思い出になっています。

青春時代!?
だった高校生活

代田(北澤)真紀子(88回生)



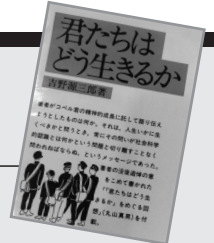
丙午生まれの学年なので他学年より1～2クラスは少なかったと思います。私は軟式テニス部に所属し毎日？まじめに練習していましたが、硬式と軟式に1面ずつしかコートがなかったので、軟式は中庭のコートで男女一緒に練習していました。軟式のボールなので古い木造校舎のガラスを割ることはなかったはず、と記憶しています。卒業してからも軟庭の同期全員が東京の大学に進学したので、時々飲み会をしたり、皆でスキーや沖縄旅行に行ったりと交流は続いていました。しかも、軟庭の同期と結婚したので帰省は必ず諏訪に行きます！子供達も諏訪が大好きです。

1973年頃の校舎



恩師・小野朋士先生

飯島 誠(89回生)



清陵時代、担任だった小野朋士先生からは、褒められた記憶がない。1983年に始まったテレビ番組「高校生クイズ」について、ある日のホームルームはまるごと「高校生がクイズ番組に出るなんて…」というお話をいただいた。研修旅行では、宿の門限に遅れて叱られた。2階の窓から見えた先生の顔は（アルコールで？）真っ赤だった。高校3年秋の保護者面談では、「君がこれほど勉強しないと思っていませんでした」と言われる始末。それから20年、級友たちと久々に同級会を企画して小野先生もお招きした。「何度でもお礼を言いたいです」と翌春にいただいた年賀状は、今でも大事な宝物だ。何度でも紹介いただいた書籍『君たちはどう生きるか』を傍らに、2025年6月に逝去された小野先生のご冥福をお祈りしたい。

「自由」の扱い方を学べた
高校時代

プロ社交ダンサー
上脇友季湖(97回生)



校則は「上履きと外履きは分けなさい」の一つだけなんだよ、と聞いて懂れた清陵高校。実際に一つだけだったかどうかはさておき、入学した時に髪型も服装も自由だけど学生の中で自治がある、という環境にとっても感激したことを覚えています。自由な中で、自然に自分の中での規律のようなものが出来ていく経験は貴重でした。現在私はプロの社交ダンサーですが、就業時間や規則もなく、練習や仕事は全て自分で決めたルールで行っています。収入は不安定、休みはほぼありませんが、「自分の決断に責任を持つこと」や「自由の扱い方」は清陵で身に付けたのだらうなと感じています。高校時代を清陵で過ごせたことに感謝！

人生の中での輪廻転生のように
母校と故郷を思う

(株)Connect代表取締役／長野県官民共創プロデューサー
小口 潤(116回生)



21時7分茅野行。野球部の練習後に乗った電車は今でも時間が言える。富士見から迎えに来てもらい、また始発で練習に行く生活の末、こんな田舎より都会に住みたいと大学で上京したのに、今では地元のまちづくりの仕事をしている。自分のルーツは間違いなく清陵で過ごした3年間、辛かった練習も勉強もマラソンも全てが積み重なって今があると感じ、人生の中での輪廻転生のように、一周回って大好きな清陵や諏訪の地にも恩返ししたいと励んでいる。130周年を機に、母校を、諏訪の地を誇りに思う人が少しでも増えたらと筆を取る。

2013年頃の校舎

私の清陵時代
「はじまりの話」

矢ヶ崎明德(96回生)



入学した4月、地方会「上伊那学生団」の新入生歓迎コムバでのことです。この会は熱烈な校歌指導、鶏の頭入りカレー昼食、個別に質問責めと宿題が課される「面接」が伝統でした。面接で「学友会を調べてこい」という宿題を与えられた私は、拙い質問状を手にも三役を訪ねました。様々な質問に丁寧に答えて頂いた最後に学友会長から「君たちも清陵で自治や義務と権利について大いに考え学んで欲しい」と言われ衝撃を受けました。その後、私自身も学生団長や学友会長を経験しましたが、義務と権利も自治の本当の意味も結局解らずじまい。ただ3年間、私なりに心に刻んだ自治の精神は今でも人生の指針であり、あの言葉がはじまりだったと思うのです。

漠然と楽しかったことは
覚えているのですが…

織田雅之(103回生) ※写真は清陵祭の
仮装行列のとき



我々の高校時代はちょうど世紀末真った中で、どことなく冷めたような、斜に構えたような時代でしたが、その中でも時々垣間見える清陵特有の古き良き熱さが好きでした。元來記憶力が薄弱なもので、この企画を期に高校時代を思い出そうと部屋をあさったところ、紙面に記すことがはばかれる思い出に関する謝罪文の原稿が出てきて、そっと箱を閉じました。あの頃から成長がみられない自分を反省するよい機会となりました。皆様もこれを期に過去の思い出をひも解いてはいかがでしょうか。なお、個人的には談論会が好きで、あの足踏みをもう一度聞きたいと思う今日この頃です。

「直接」が
教えてくれたこと

東京大学薬学部3年
荻原怜雄(126回生)



私の高校生活の始まりはパソコンの画面からだった。（コロナ禍で）応援の声を奪われた硬式テニスの大会、次々と消えた行事の数々。それでも上川のテニスコートで3年間流し続けた汗と、高校3年秋の湖周マラソンで感じた向かい風は、画面越しでは得られない生命の鼓動を教えてくれた。マスク越しの笑顔と拍手も今では大切な記憶だ。直接走り、打ち、息を切らす時間こそ学びの核だと知り、今もその実感を胸に新しいコートに立っている。この経験が、大学生活でも現場に飛び込む原動力になると信じている。

第11回 ミドル交流会

2024年12月9日に、92回生主管の第11回ミドル交流会を開催しました。今回は、「安全安心な暮らし」をテーマに、同期2名に講演をしていただきました。岡谷田中小学校校長の竹内良之さんは、不登校、虐待、アレルギー、交通安全、防災など多岐にわたる危機管理に教育現場のみなさんが日々尽力されている姿を紹介。特に人口減少が進む中、学校単独では対応困難な課題に対し、医療・福祉・警察等との連携による「チーム学校」体制の構築が不可欠と指摘。さらに、現代教育では「資質・能力」を軸とした新学力観が浸透する中、実感ある体験は心を動かし、心を輝かせる。

安心安全な暮らしのために ～学校教育とサイバーセキュリティの現場から～

まさに「ふるさととは心に熾火を灯す場所」であることを強く訴えました。株式会社NTT Risk Manager代表取締役社長の一ノ瀬勝美さんは、現代社会が直面するセキュリティリスクの中から、家庭と職場における事例・対策を紹介しました。家庭では特殊詐欺が深刻化。電話が主な手口であり、自社で提供しているサービスの案内も交えながら、固定電話への対策や若年層へのネット啓発の重要性を強調。職場では内部不正による情報漏洩などが後を絶たないことを踏まえ、自社グループの取組み事例を説明。経営層のリーダーシップ、早期

報告、システムと人的管理の両面からの対策が鍵になるとしました。今回のミドル交流会は、6年ぶりのリアル会場に、オンライン参加者を交えたハイブリッド開催となりました。交流会後のアンケートでは、異なる分野の現場の声が聴けてよかったとのコメントや、今後もハイブリッド開催を続けてほしい旨の要望が多くありました。また、若い世代のみなさんが参加しやすい時間帯や参加方法の工夫を期待するご意見も頂戴しました。貴重なご意見を東京清陵会総会の企画、運営に反映していきたいと思ひます。(瀧澤宣明 92回生)

令和6年度 東京清陵会定期総会・懇親会の開催報告 (2024年10月5日開催)

～伝統を紡ぎつつも新たな挑戦とともに迎えた東京清陵総会～

2024年10月5日(土)、91回生幹事により、東京清陵会の総会および懇親会を会場とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。会場には73名、オンラインには27名の計100名が参加し、東京近郊のみならず諏訪をはじめ遠方から駆けつけてくれた同期の仲間と再会し、交流を深める場となりました。今回は、テーマ「伝統とNew Normal」にふさわしく、従来の方法を重んじながら、「会場を東京・神保町の喜山倶楽部へ変更」、「懇親会費の事前振り込みへ切り替え」、「開催曜日を日曜日から土曜日へ変更」という新たな試みを取り入れました。これらの試みを成功させるため、事前アナウンスの徹底や宣伝強化を行い、試行錯誤を重ねながら準備を進めました。

幹事一同は、91回生であつらえたベージュのTシャツを着用し、一致団結して当日の運営に取り組みました。記念講演「地上の太陽を目指して」では、株式会社 Helical Fusion 代表取締役

CTOの宮澤順一(91回生)氏より、最先端技術である核融合の実用化に向けた挑戦について熱いメッセージが語られ、参加者にとって大きな刺激となる内容でした。また、校歌斉唱や閉会までを中継する新たな試みも実施し、リモート参加者を含めた全員が一体感を得られるように工夫しました。準備段階では困難



もありましたが、91回生の同期や事務局、そして92回生の次期幹事の支えを受け、無事に終えることができました。参加者アンケートでは、会場の音響面やリモート参加に関する課題の指摘を受けましたが、今回の新たな取り組みが今後の東京清陵会の発展に少しでも寄与できたのではないかと自負しております。いただいた貴重なご意見は92回生幹事へ伝え、彼らなりの創意工夫を活かした運営をしてくれることを期待しています。今年度の盛会を心よりお祈り申し上げます。(小松文美 91回生)

2024年度 女子部活動報告

活動を通じて見えた繋がり

今年3月、東京の「諏訪」を探して街歩き企画として「大森界限」を歩きました(当日の様子は東京清陵会のfacebookや本部会報の号外でも掲載しています)。企画の発端は「諏訪式。(小倉美恵子氏著)」の中で触れていた「大森界限には昔から諏訪出身の海苔商が多く、自分たちの成功を諏訪大社に感謝して恩返しをしていた」という史実を巡るために大森諏訪神社、大森海苔のふるさと館などを訪ねることでした。当日、「特別解説者」としてご参加いただいた石埜穂高(78回生)さんより、「もともとは諏訪藩が外貨獲得として江戸の海苔屋への出稼ぎを奨励、外貨分には課税をしなかったため、大森界限への出稼ぎが大変広まった」「出稼ぎの人数が増えて、悪さをする人が出る、品質が保てなくなるなどの問題が出た

清陵勉強会

2024年4月から2025年4月にかけて、例年通り偶数月第4火曜日の19時より(12月のみ第3週)勉強会を実施しました。Zoomでの参加も続けており、首都圏在住の同窓生だけではなく、他の地域にお住いの多くの同窓生からの参加がありました。

講師を受けてくださった同窓生のみなさんと、テーマは右の表の通りです。いずれも、簡単に手に入る書籍、報道では取り扱われていない内容が含まれており、参加者から「有名事実の更に奥があるとわかって刺激になった」との声をもらっています。

筆者自身が参加できた回では、第205回勉強会で宮坂勝彦(107回生)さんが講演してくださった内容が印象に

ため、諏訪明神の名のもとに御湯花講という相互扶助、相互戒律を目的とする組合をつくって品質や信用を保ち、諏訪明神への感謝を示し続けた」と説明いただき、さらに「大森のりのふるさと館」で、御湯花講が諏訪大社に奉納した額のレプリカを見て、実感が深まりました。(余談ですが、この日ふるさと館にあった「図録 海苔商たちの底力」は我々の購買により品切れ)。また、この企画に合わせて62回生の久保全陸さんより、大森の海苔を全国に商いながら江戸時代に浜名湖で海苔の養殖を成功させた森田屋彦之丞(諏訪郡宮川村新井出身の藤森彦之丞)の話、また諏訪藩の出稼ぎ奨励の話などが書かれている「諏訪地方の語り伝承 第一集」(茅野市八ヶ岳博物館、令和2年1月発行)の「語り部 藤森元男さん(彦之丞の7代目)の話」の資料をお送りいただき、大森から西に広がる海苔養殖に諏訪人が深く関わっていたという情報もいただき、当日参加者と共有することができました。

さらに当日ご参加の米山勉男(63回生)さんより、「山国からやってきた海

苔商人(島利栄子氏著)」という本をご紹介いただきました。ここには千葉で活躍していた諏訪出身の海苔商のことや、諏訪で家を守った海苔商の妻たちのことが鮮明に描かれていて、歴史を知る上でも読み物としても面白い本でした。このように一つのテーマを投げかけると、同窓生のみなさんがさらに広い輪をどんどん繋げてくれる。そしてみんなでそれを共有することができる、こんな面白い活動はなかなかないと思います。ぜひ皆さまもご参加ください。(浜美智子 88回生)



大森諏訪神社にて。バックは上社。左奥には下社もあります



残っています。日本酒の味がその土地の食べ物、風土と強く結びついていること、諏訪盆地の中であっても水の源流となる山が違うと、出来る酒の味が変わってくることなどを知り、日本酒を飲む時の楽しみが増えました。勉強会は偶数月の第4火曜日に開催。内容は東京清陵会のWebページでもお知らせしています。みなさんの参加をお待ちしております。(熊谷和則 96回生)

回数	実施月	講師(敬称略)	回生	講演タイトル
201	2024年4月	有賀 一温	75	清陵勉強会の歩みとこれから
202	2024年6月	宮坂 正英	76	シーボルト文書と「鳴滝塾」
203	2024年8月	佐藤 圭一	108	気象予報の現場から見る地球沸騰化
204	2024年10月	今井 啓雄	89	味覚受容体の変化とヒトを含む霊長類の進化
205	2024年12月	宮坂 勝彦	107	諏訪の風土と真澄
206	2025年2月	宮澤 順一	91	人類はフュージョンエネルギーを手にすることができるか?
207	2025年4月	中村 梧郎	62	ベトナム戦争終結50年、戦場取材の現場から
208	2025年6月	木澤 義之	88	重い病をもった人生の最終段階にある人をどう支える



模擬講義を見てきました

東京清陵会が掲げている目的「研鑽・交流・貢献」。その「貢献」として実施している母校連携事業には「キャリア講座」「東京研修旅行時の職場見学受け入れ」「東京の大学訪問」「大学模擬講義」などがあります。今回、2024年9月21日実施の「大学模擬講義」を現地にて見てきました。

●実施まで～講師選定から事前質問～

大学模擬講義は、高2生に対し進路選択の参考にしてもらうために実際の大学教員に、大学紹介や講義をしてもらう企画。高校のご担当の先生より、生徒さんの希望の分野をヒアリングして、卒業生の中から該当する分野の大学教員を探します。例年、文・理・医分野から7～8講座を設けており、2024年度は下記の8講座を開催しました。

講師名(回生)
日本大学文理学部化学科 藤森裕基 先生(88)
筑波大学医学部 木澤義之 先生(88)
獨協大学国際教養学部 野澤 聡 先生(88)
帝京大学先端総合研究機構及び 理工学部・大学院理工学研究科 田沼唯士 先生(76)
神戸大学大学院理学研究科 青沼仁志 先生(88)
京都大学ヒト行動進化研究センター 今井啓雄 先生(89)
別府大学文学部国際言語・文化学科 藤森千博 先生(94)
桃山学院大学・社会学部 村上あかね 先生(95)

生徒さんは希望の講座を選択し、事前質問などを 구글フォームに記入。事務局が取りまとめて、講師に事前に伝えます。今回、合計でなんと100件以上の事前質問があり、内容も講師が驚くほどのものでした。

—実際の質問内容の例—

自身の大学生活や教員の立場に立って清陵高校での学びが活きていると感じた時はありますか（今井先生へ）
昆虫の仕組みを利用して今後取り入れられそうな技術は何か（青沼先生へ）
各国に比べ日本が特に劣るところは何か、また改善していくことは現実的に可能か（村上先生へ）

●講義当日～講義後

講義は約60分の講義と質疑応答で構成。

講義方法は講師の先生にお任せなので、実験装置や模型を持ち込んでくださる先生や、大学のある地域のお土産を持参くださる先生も。どの講義も生徒さんの真剣な姿勢と先生の熱い講義の様子が見られました。講義終了後には、グーグルフォームにて、感想・質問をもらい、後日質問への回答を講師よりいただき講義終了。以下の生徒さんからの感想を見ていただくと、現在の清陵生の優秀さがわかると思います。

—実際の感想内容—

自分は「人を救う」ことに興味を持っていた将来それに関わりたいと思っているので、今日の講演はとても意義のあるものになった。先生がいきいきとして働いていることが見えて、未来に希望が持てた。（木澤先生講義）

工学と環境について質問させていただきましたが、製造過程から含め「工学の本質は人間のため」という言葉に全て詰まっていることが講演を通して理解することができました。（田沼先生講義）

自分が無意識に行っている言語の組み立てについて知って、これからの勉強をより深められると思った。（藤森千博先生講義）

水は一番身近な物質で日常に溶け込んでいるので、水の研究がこんなに奥が深いと思っていなかったです。研究がとても楽しそうで、研究職の良さが分かりました。（藤森裕基先生講義）

実際に現代の問題についてじっくり考える時、自分は賛成派か反対派か決めることができず、もっと多くの経験と知識を身につけた上で考えてみたいと思いました。（野澤先生講義）

●2024年度の模擬講義を終えて

今回、実際の講義の場に立ち合ってみて同窓生の講師が模擬講義によって後輩の生徒と接点を持つことは、若い後輩の将来に少なからず影響を与えるに違いない



いと実感しました。この繋がりこそが同窓会の醍醐味であり意義であると思います。これからも多くの素晴らしい講義を希望に満ち溢れる後輩たちに伝え続けたく、そのためにも、DXによるデータベース構築にさらに広がりを持った展開が可能となることを期待します。

最後に、今回講義を引き受けてくださった先生からの感想を掲載します。

—帝京大学 田沼唯士先生—

清陵を卒業してから52年後に母校の教壇に立つ機会を頂き、現役の清陵生と話げできたことは、大変貴重で、忘れられない経験でした。当日は大学と大学院の講義資料を使って「持続可能な社会に必要な創造的なものづくりを支える工学」との演題で、機械工学で何ができるか、ものづくりの価値を高める製品設計、医学・歯学の高度化を支える力学モデリングとシミュレーション等の話をさせて頂きました。講義中と講義前後に頂いた質問のレベルが高く、熱心に聴いて頂いたことが伝わってきました。

—桃山学院大学 村上あかね先生—

今回ゆくりなくもお声がけいただき社会学の成立から発展の歴史、そして私たちを取り巻く状況と今後の見通しについてお話ししました。生徒さんは熱心に聞いてくださり、質問も鋭いものでした。真摯に学ぼうとする生徒さんの姿は昔と変わらず、懐かしくまた頼もしく感じました。母校・同窓会・地域のさらなる発展を願うと同時に、生徒さん一人ひとりの将来に大いに期待します。

（浜美智子 88回生）

旧制 諏訪中学校・諏訪清陵高等学校 創立130周年

2025年 清陵 創立130年!

1895年（明治28年）4月25日、母校・諏訪清陵高校の前身、郡立諏訪実科中学校が、高島小学校の南隅を借りて開校しました。2年後の1897年（明治30年）に、清水が丘の新校舎に移転。以来、長野県諏訪中学校に改称、1948年（昭和23年）に長野県諏訪清陵高等学校に移行しました。1915年（大正4年）に諏訪湖一周マラソン開始、1950年（昭和25年）に共学化、2002年（平成14年）に文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定、2014年（平成26年）には附属中学校を開校し併設型中高一貫校に転換するなど、発展して参りました。この間、各界・分野において先導的役割を担う人材を育成、輩出して今日に至っております。そして本年、創立130周年を迎えました。

創立130年 記念事業の実施

この記念すべき年にあたり昨年7月に、「学校」「PTA」「同窓会」により、周年記念事業実行委員会を設置し、主に下記の事業を行うべく、6つの部会（①総務 ②財務 ③広報 ④施設整備 ⑤記念式典 ⑥DX推進）を置き活発に活動して参りました。

- 1.記念式典の挙行
- 2.祝賀事業としての懇親会開催
- 3.学校・教育環境整備及び部室棟（同窓会館）改修
- 4.学校教育及び同窓会活動のDX化推進
 - 1）記念史の整備
 - 2）同窓会オンライン名簿の整備
 - 3）同窓会事務局の環境及び体制整備強化
- 5.その他記念事業達成のための事業実施

記念式典・講演会 祝賀会 開催

■記念式典・記念講演会

- ・日時：10月18日（土）14時～
- ・会場：諏訪清陵高等学校 大体育館
- ・主催：旧制諏訪中学校・諏訪清陵高等学校創立130周年及び附属中学校創立10周年記念事業実行委員会
- ・講師：岩本敏男氏
（元NTTデータ社長／74回生）

※尚、この式典及び講演会は、現役の中高生を主な対象にしたものであります。

■記念祝賀会

- ・日時：10月18日（土）18時～
 - ・会場：ホテル「紅や」
- ※詳細は諏訪清陵高校（担当：倉澤・白木）へ、お問い合わせください。

創立130周年 記念事業寄付のお願い

1. 目標金額 ： 2,500万円
 2. 寄付の使途 ： 上記「創立130周年記念事業」の実施
 3. 個人からの寄付【所得税の寄付金控除はできません。金額は任意です。】
 - ➡ 学校の要望に融通の利く、教育環境整備に活用する積立金
 - 1）銀行振込： ①八十二銀行 諏訪支店 普通 1124815
②諏訪信用金庫 上諏訪支店 普通 1128944口座名義：「旧制諏訪中学校・清陵高等学校創立130周年及び附属中学校創立10周年記念事業実行委員会 実行委員長 今井竜五」
 - 留意事項
 - ①送金者名の前に何回生かを記入下さい。（例：92回生の場合「92セイリョウ タロウ」）
 - ②振込手数料は各自ご負担願います。
 - 2）郵便局振込取扱票： 5月に送付された本部会報に同封の「諏訪清陵高校創立130周年記念事業寄付金納入のお願い」振込取扱票をご利用下さい。会員番号は封筒のラベルに記載されております。
 - 一口1万円、何口でも結構です。
 - 3）募金期間：令和7年5月15日～令和8年12月31日（目標金額を超えた場合でも期間中は継続）
4. 企業からの寄付【寄付控除の対象】
 - ➡ 指定寄付金（長野県の所有になる物への寄付）は、120周年時と同様に企業に依頼。

※記念事業終了後、同窓会報にてご寄付頂いた方のご芳名を掲載させていただきます。掲載を望まない方は事務局にご連絡をお願い致します。

会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2024年度会費納入者ご芳名 (2024年4月1日～2025年5月31日までに入金があった方) (敬称略)

回生	氏名	70	齊藤 万比古	75	今井 武	82	青木 基浩	89	吉中 宏子
67	樋口 兼久	70	藤森 行雄	75	宮下 和彦	82	竹内 雅彦	89	宮坂 賢一
67	池上志奈子	70	石田 和夫	75	北澤 守一	82	三井 哲志	89	金子 武司
67	名取 省三	70	竹村 善隆	75	伊東 晴俊	82	清水 正己	89	両角はるか
67	小平 攻	70	河合 広実	75	柳沢 治道	82	北原 譲	89	田中 千浩
67	平林 千義	70	小林 金好	75	安木 良術	82	小野 隆吾	90	入谷麻奈美
67	増沢 和夫	70	安木 良博	75	小平 聡	82	黒田 茂	90	藤江 美智
67	湯田 英人	70	久保田 功一	75	有賀 一温	82	金子 勝彦	90	古澤 博文
68	藤森 照信	70	小口 隆夫	75	伊藤 せい子	83	岡本 徹	90	古村 雅利
68	小林 盛男	71	三橋ひさ子	76	田中 修	83	小松 裕	90	藤森 伝一
69	柳平 克利	71	磯野 康子	76	中島 真一	83	筧 慎治	90	桑澤 高
69	藤森 光彦	71	浜 研一	76	北澤 道子	83	倉田 重子	91	小松 文美
69	小尾 岬	71	森 史朗	76	金子 次男	83	松崎 任宏	91	藤森 裕司
69	吉川 仁	71	森 さと子	76	花岡 博茂	83	伏見 升成	91	高橋真由美
69	林 史章	71	増澤 博和	76	関屋 孝行	84	赤羽 俊昭	91	北澤 久美
69	比田井昌英	72	白鳥 洋治	76	森田 益弘	84	小口 高	91	矢澤 哲也
69	比田井和子	72	桑澤 元孝	76	田沼 唯士	84	小海 健治	91	瀧澤 宣明
69	中村 正治	72	原田 文登	76	大村 富範	84	真田 明美	91	小川 裕司
69	山田 計夫	72	小口 邦雄	77	田添 珠実	84	島崎 義郎	91	太田 佳孝
69	川村美枝子	72	林 健康	77	春日 敏彦	84	清水 信次	92	植松かおり
69	茅野 泰幸	73	原 秀男	78	小松 一俊	86	武田 正利	92	西村 和訓
69	武村 光男	73	小口 泰介	78	両角 寛文	86	細田 明	92	高原由紀子
69	玉置 守好	73	熊谷 靖樹	78	原 雅彦	86	猪俣 顕文	92	仲田 優
69	柳平 三雄	73	伊藤 俊巻	79	油井 幸雄	86	林 聡一	92	百瀬 浩三
69	功刀 正行	73	原 大	79	三井 夏海	87	浜野 崇	92	溝口 浩司
69	佐藤 良昭	73	山田 文雄	79	高橋 則広	88	藤森 裕基	93	柳澤 寿男
69	小林 正秀	74	岩本 敏男	80	米沢 あ子	88	増澤 浩一	96	熊谷 和則
69	牛山 隆夫	74	金井 良一	80	花岡 友子	88	鮎澤 茂	99	荒木健太郎
70	米澤 英樹	74	五味 克成	80	工藤 千秋	88	村山 光義	102	小林 万真
70	清水 英俊	74	土屋 彰男	81	矢島 岐	88	佐藤美智子	102	藤原 義弘
70	平山 哲三	74	北原 嘉泰	81	河合 俊昭	88	矢島 肇	110	矢島 健志

2024年度賛助金納入者ご芳名 (2024年4月1日～2025年5月31日までに入金があった方) (敬称略)

回生	氏名	61	川村 昌平	66	河合 三彦	70	小口 隆夫	80	米沢 あ子
44	片倉 久夫	61	篠藤 哲夫	66	林 央	71	磯野 康子	80	工藤 千秋
48	鈴木 敞	61	古村 民司	67	名取 省三	71	浜 研一	81	河合 俊昭
51	小松 袈伴	61	山本 裕一	67	平林 千義	71	増澤 博和	82	青木 基浩
51	堀内 昭八	61	矢崎 豊晴	67	湯田 英人	72	林 健康	82	竹内 雅彦
51	林 将雄	61	北原 隆	67	増沢 和夫	73	伊藤 俊巻	82	小野 隆吾
52	榎本 平三	61	中村 隆一	68	藤森 照信	73	原 大	82	竹内 雅彦
56	平塚 一實	61	川村 昌平	68	原田 盛夫	73	山田 文雄	82	黒田 茂
56	中村 宏	61	篠藤 哲夫	68	小林 盛男	74	岩本 敏男	83	松崎 任宏
56	渡部 清	62	両角 晃一	69	林 史章	74	五味 克成	83	小松 裕
56	河西 啓二	62	宮澤 生行	69	比田井昌英	74	北原 嘉泰	83	伏見 升成
56	青木 瑞枝	62	宮坂 元裕	69	比田井和子	75	今井 武	83	筧 慎治
57	増沢 充	63	河西 武彦	69	山田 計夫	75	北澤 守一	83	倉田 重子
57	五味 乙	63	藤森 宏一	69	川村美枝子	75	安木 良術	84	赤羽 俊昭
57	友野 正喜	63	小池 博人	69	武村 光男	75	小平 聡	84	小海 健治
57	佐野川日出雄	63	米山 迪男	69	柳平 三雄	76	田中 修	84	島崎 義郎
58	木下 博介	63	両角 實	69	功刀 正行	76	中島 真一	86	林 聡一
59	金子 道子	63	尾澤 弘久	69	佐藤 良昭	76	金子 次男	88	藤森 裕基
59	金子 正喜	63	亙理美代子	69	小林 正秀	76	関屋 孝行	88	鮎澤 茂
60	高木 祥勝	64	垣内 直	70	米澤 英樹	76	森田 益弘	90	藤江 美智
60	永田 郷雄	64	祖父江宏三	70	平山 哲三	76	田沼 唯士	90	古村 雅利
60	小川 浩史	64	新村 恩	70	藤森 行雄	77	田添 珠実	91	藤森 完一
60	小松 寛之	65	細川 直吉	70	竹村 善隆	77	春日 敏彦	91	矢澤 哲也
60	増沢 豊久	65	岩波 武功	70	河合 広実	78	小松 一俊	92	高原由紀子
60	永田 郷雄	65	細川 直吉	70	安木 良博	79	油井 幸雄	96	熊谷 和則
61	早川 次彦	65	池田 昌純	70	久保田 功一	79	高橋 則広		

東京清陵会の現況 データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2025年5月末現在)。

1. 東京清陵会会員の定義 (1)首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)、宮城、静岡在住の同窓生(ただし、退会申し出者を除く)。(2)転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。 2. 会員現勢 総数2,478名(住所不明者1,417名を除く)(1)都県別会員数 東京都1,221名、神奈川県493名、千葉県357名、埼玉県310名、茨城県56名、群馬県17名、栃木県21名、静岡県1名、宮城1名。(2)年次別会員数(下表)(3)年次別会費納入者数(別表)

別表 年次別会員数と会費納入状況(2024年3月31日現在)

回生	現員	不明	計	会費
～ 38	1	28	29	0
39	1	3	4	0
40	1	5	6	0
41	1	9	10	0
42	3	7	10	0
43	3	2	5	0
44	6	9	15	1
45	3	7	10	0
46	1	8	9	0
47	10	6	16	0
48	23	7	30	1
49	24	6	30	0
50	19	16	35	0
51	29	25	54	3
52	25	15	40	1
55	12	2	14	0
56	34	9	43	5
57	49	16	65	4
58	49	14	63	1
59	52	12	64	2
60	69	27	96	8
61	59	14	73	10

回生	現員	不明	計	会費
62	70	10	80	8
63	79	12	91	7
64	58	15	73	3
65	57	15	72	4
66	64	23	87	2
67	80	16	96	7
68	54	30	84	5
69	92	19	111	13
70	83	26	109	10
71	64	29	93	11
72	46	22	68	7
73	65	20	85	6
74	61	29	90	5
75	53	21	74	10
76	55	22	77	9
77	53	24	77	3
78	60	40	100	3
79	59	18	77	3
80	69	12	81	3
81	66	19	85	5
82	51	25	76	10
83	69	34	103	7

回生	現員	不明	計	会費
84	50	27	77	6
85	48	43	91	0
86	44	37	81	5
87	32	33	65	3
88	29	48	77	6
89	57	37	94	8
90	63	31	94	6
91	42	40	82	9
92	31	48	79	6
93	16	32	48	1
94	22	22	44	0
95	12	31	43	0
96	13	39	52	1
97	13	23	36	0
98	5	33	38	0
99	9	12	21	1
100	6	19	25	0
101	2	12	14	0
102	1	5	6	2
103	2	5	7	0
104	0	2	2	0
105	1	0	1	0

回生	現員	不明	計	会費
106	2	6	8	0
107	1	0	1	0
108	2	12	14	0
109	2	12	14	0
110	1	14	15	1
111	2	4	6	0
112	2	1	3	0
113	10	4	14	0
114	3	4	7	0
115	7	2	9	0
116	13	3	16	0
117	5	2	7	0
118	12	14	26	0
119	15	6	21	0
120	11	6	17	0
124	1	5	6	0
125	3	3	6	0
126	1	3	4	0
127	1	0	1	0
合計	2478	1417	3895	232

注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3) 会費:前会計期(2024.4～2025.5)会費あるいは賛助金納入者の人数
会費免除会員(～66回生、および120回生～)の人数 1,181名

収支計算書(案) 自2024年4月1日～至2025年3月31日 (単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費 (1)総会会費(会場76名) (2)会員年会費(158名) (3)賛助金会費(122名)	2,010,000 880,000 480,000 650,000	1,509,000 638,000 316,000 555,000	501,000 242,000 164,000 95,000
2 諸収入 (1) 寄付金 (2) 預金利子 (3) 広告料	71,200 50,000 1,200 20,000	121,910 100,000 1,910 20,000	△ 50,710 △ 50,000 △ 710 0
当期収入合計 (A)	2,081,200	1,630,910	450,290
前期繰越	8,021,284	8,021,284	0
収入合計 (B)	10,102,484	9,652,194	450,290

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費 (1)総会費用 (2)会議費 (3)諸会費 (4)印刷・通信費 (5)事務雑費 (6)会報費 (7)清陵勉強会 (8)HP運営費 (9)予備費	1,000,000 60,000 140,000 180,000 20,000 500,000 60,000 50,000 30,000	627,500 20,194 110,000 110,717 12,763 491,725 60,000 20,582 0	372,500 39,806 30,000 69,283 7,237 8,275 0 29,418 30,000
当期支出合計 (C)	2,040,000	1,453,481	586,519
当期収支差額 (A)－(C)	41,200	177,429	△ 136,229
次期繰越 (B)－(C)	8,062,484	8,198,713	△ 136,229

寄付金収入 ①総会時寄付50,000円(本部4万円、学校1万円)
②支部活動助成金50,000円(本部)

貸借対照表(案) 2025年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額		
I 資産の部 流動資産 現金 普通預金(三菱UFJ) 定期預金(三菱UFJ) 郵便振替口座(会費・賛助金) 流動資産合計 資産合計	0 2,737,091 5,047,778 419,844	8,204,713	8,204,713
II 負債の部 流動負債 前受金 流動負債合計 負債合計	6,000		
正味財産 (うち当期正味財産増加額) 負債及び正味財産合計		6,000	6,000 8,198,713 (177,429) 8,204,713

以上監査の結果、正確なものと認めます。

令和7年7月8日 監査幹事 青木基浩 ㊞

2025年度収支予算(案) 自2025年4月1日～至2026年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	850,000
会議費	50,000
諸会費	140,000
印刷・通信費	140,000
事務雑費	20,000
会報費	600,000
清陵勉強会	60,000
HP運営費	50,000
予備費	30,000
小計	1,940,000
次期繰越	8,228,713
合計	10,168,713

収入の部

科目	金額
総会会費	800,000
会員年会費	400,000
賛助金会費	680,000
寄付金	50,000
預金利子	20,000
広告料	20,000
小計	1,970,000
前期繰越	8,198,713
合計	10,168,713

(注)2025年度予算の収支差額は、30,000円の剰余金となります。

2024年度 事業報告

2024

- 4月11日 第1回 事務局会議 Zoom開催
4月13日 日本酒同好会主催「米澤酒造&かんてんぱづアール」岡谷発着 参加者9名
4月20日 第35回 東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36西コース) 参加者10名
4月23日 第201回 清陵勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:有賀一温(75回生)
5月25日 南信同窓連総会(アルカディア市ヶ谷) 参加者5名
6月25日 第202回 清陵勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:宮坂正英(66回生)
7月6日 東京同窓連総会(アルカディア市ヶ谷) 参加者5名
7月16日 学年幹事会(南政労働会館およびZoom開催)
8月2日 第2回 事務局会議 Zoom開催
8月15日 会報「東京清陵会だより」発行 1200部発送およびHPへの掲載
8月27日 第203回 清陵勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:佐藤圭一(108回生)
9月14日 第36回 東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36西コース) 参加者18名
10月5日 第58回 定期総会 日本教育会館(喜山倶楽部)およびZoom開催
10月22日 第204回 清陵勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:今井啓雄(89回生)
10月25日 南信同窓連ゴルフコンペ(長太郎カントリークラブ:東京清陵会から3名参加)
11月14日 第3回 事務局会議 Zoom開催
12月4日 当番幹事引継会:91回生→92回生 Zoom開催
12月7日 ミドル交流会(新宿T-space II) 92回生によるハイブリッド開催
12月7日 南信同窓連忘年会(新宿 三平) 参加者10名
12月17日 第205回 清陵勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:宮坂勝彦(107回生)
12月22日 ①女性部コンサート参加「クリスマスDUO 歌&ピアノ」(サントリーホールブルーローズ)
②「93回 柳澤寿男さん第9コンサート」(板橋区文化会館大ホール)

2025

- 2月1日 東京同窓連新年会(アルカディア市ヶ谷) 参加者7名
2月19日 会報 編集会議(92回生&事務局) Zoom開催
2月25日 第206回 勉強会(品川会議室およびZoom開催) 講師:宮澤順一(91回生)
3月30日 女性部企画「東京の諏訪を探して街歩き〜大森界隈編〜」参加者12名

2025年度 事業計画

- 第59回定期総会・懇親会 10/5(日) 日本教育会館(喜山倶楽部)ハイブリッド開催 当番幹事92回生
- 会報「清陵会だより」第36号発行(8月上旬)
- 事務局会議(4、11月)学年幹事会(7月)南政労働会館およびZoom開催
- 清陵勉強会開催(偶数月第4週火曜日予定)
- 第12回 ミドル交流会開催(93回生)
- 母校連携・生徒との交流の拡充(講師派遣・企業研修・清陵祭参加など)
- 女性部・各同好会のイベント
- 南信同窓連・東京同窓連活動参加
- 懇親ゴルフ会開催
- 本部や他支部との交流、情報交換などの連携を図る
- DXへの取り組み 会員情報管理の高度化、効率化 HPの拡充・SMS利用の拡大
- その他必要とする事業

編集後記

手探りの状態でゼロから始めた会報制作。時には膝を突き合わせ、時にはSNS上でやり取りを重ねる中で、同期との会話からさまざまなアイデアが湧き上がりました。冗談半分で話したことさえも、次々に記事として形になっていったのは、今振り返っても驚きです。多くの同期に原稿執筆や対談などをお願いしましたが、皆が多忙を極める中、誰一人として断ることなく、快く力を貸してくれました。「頼まれたら断れないよ」と言ってもらえたときには、胸が熱くなりました。温かく、そして頼もしい素晴らしい同期に恵まれたことを、心から誇りに思い、幸せに感じています。また、小松文美さんをはじめとする91回生の先輩方には、丁寧で的確なアドバイスをいただきました。事務局の皆さま、特に事務局長の吉中宏子さんには、何から何までご支援いただき、大変心強く感じました。関わってくださったすべての方々に、心より深く御礼申し上げます。この会報を通じて、世代をつなぐ小さな心の熾火がとともることを願っています。(92回生 溝口浩司)

第38回東京清陵会ゴルフコンペのご案内

「東京清陵会」
ゴルフ同好会

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。

同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

●日時:10月4日(土) 8時30分集合 9時スタート

●場所:紫カントリークラブ あやめ36 東コース

(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分)

●プレー代:約20,000円(食事付) 会費:3,000円

参加希望の方は、清水(84回生) shimizu@palam.jp まで。

住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください。

●幹事=青木基浩(82回生)、小海健治(84回生)、高橋(金子)真由美(91回生)

計 報

謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

回	氏 名	逝去年月日
44	片倉 久夫	2023/12/18
44	茅野 文明	2025/6/1
44	岩本 安利	2024/11/15
44	高橋 瀏爾	2024/4/30
45	笠原 正之	2018/3/29
46	林 克典	2024/2/2
46	藤原 安行	2024/10/19
48	溝口 章夫	2022/4/
48	中川 宏平	2023/10/21
48	渡辺 誠	2023/12/19
48	矢崎 槇雄	2024/8/19
49	土田 健次郎	2024/9/
49	中村 登紀夫	2024/6/22
49	三澤 善治郎	2024/3/13
49	矢崎 成	2025/1/13
50	伊藤 順蔵	2024/3/
50	伊藤 友彦	2024/9/27
50	鈴木 仁郎	2024/5/12
50	溝口 裕一	2024/4/1
51	酒井 和悦	2023/9/25
51	町田 恭二	2024/5/4
51	橋渡 勇	2024/5/16
52	山田 順三	2024/3/30
52	牛山 積	2024/8/7
52	小林 弥六	2024/8/9
52	林 秀樹	2025/1/15
55	小林 誠三	2024/10/8
55	太田 弘道	2025/1/9
55	名取 一夫	不明
56	関 泰	2024/3/25
56	平林 信之	2021/9/
56	鮎澤 美雄	2024/5/31
56	増沢 充	2024/3/2
56	宮坂 基也	2024/3/27
57	和田 昭通	2024/7/26
57	花岡 忠	2021/12/31
57	加々見 正男	2024/
57	竹田 守男	2024/2/27
57	久保田 三重	2024/9/10
57	藤原 良雄	2025/1/7
58	林 良一	2024/4/29
58	伊藤 博敏	2024/2/4
58	小澤 啓男	2024/9/6
58	小野 寿男	2024/10/5
58	永田 賢行	2024/9/6
59	金子 公俊	2024/3/
59	桑原 敏次	2021/3/3
59	向山 喜一	2024/1/
59	白倉 徹哉	2024/2/9
59	金子 博厚	2024/11/30
59	小林 昭夫	2025/1/7
60	朝倉 重幸	2025/1/
60	窪田 作栄	2023/1/
60	金丸 容哉	2023/5/18
60	堀内 進	2024/5/11
60	丸茂 敬昌	2024/3/20
60	山田 侑平	2024/9/5
61	花岡 斎	2024/5/29
61	野口 堯史	2024/11/28
61	堀川 喜代太郎	2024/12/7
61	宮澤 三郎	2025/4/27
62	松下 達雄	2025/7/20
62	平林 哲夫	2022/12/18
62	中谷 範行	2025/12/16
62	小林 光昭	2025/
62	中島 澄雄	2024/6/4
63	小池 照美	2024/2/
64	白川 浩司	2024/12/8
64	菊池 祥夫	2024/11/5
64	五味 勝	2025/5/7
65	大輪 烈	2024/12/1
65	春日 芳夫	2024/9/
65	金子 充宏	2024/5/20
65	宮坂 孝康	2024/7/24
65	矢島 豊	2024/12/23
66	小池 章博	2024/5/20
67	岩間 大和子(旧姓 中島)	2024/10/1
67	立石 義久	2024/11/27
68	宮坂 静(旧姓 平林)	2023/3/4
68	春宮 哲	2024/9/21
68	宮坂 満雄	2024/10/
70	高岸 洋夫	2024/5/19
72	井上 一夫	2024/
73	本田 稔	2024/8/13
77	長田 美保子(旧姓 宮坂)	2024/6/20
80	竹村 文彦	2024/6/22
84	杉山 美貴(旧姓 竹入)	2024/11/11

●事務局にご連絡をいただいた方(本部会報第51号含む)を掲載。